

3. 2 夜空の明るさに関する課題研究

(1) 研究開発の課題（研究概要・ねらい）

全国の連携校・連携機関24地点での自動観測から得られたデータと、特定の地区での一斉多点観測によって得られたデータから、生徒・児童自身が考察した結果を課題研究発表会で発表する。

(2) 研究開発の経緯

一昨年までコアSSHとして実施してきた活動を継続し、ML（メーリングリスト）による連携校との連絡、共有フォルダのデータを生かし、生徒・児童の課題研究を発展させる。

(3) 研究開発の内容

ア 研究の内容・方法

発表会の準備から当日の進行までを生徒が運営することにより、生徒のリーダー性・協調性・発想力や企画力・論理的思考能力・他者に働きかける外向的で活発な意欲が高まることが期待できる。

イ 連携先

星空公団 小野間 史樹氏、岐阜県安八町 生涯学習センターハートピア安八

ウ 参加生徒

東筑紫学園高等学校、青森県立八戸北高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、香川県立三本松高等学校、遺愛女子中学高校、京都府立桃山高等学校、海城中学・高等学校、岐阜県立岐山高等学校、大垣東高等学校、土佐塾高等学校、福岡工大附属城東高等学校、高砂市立高砂小学校、一宮市立向山小学校、本校 の児童・生徒 26名

エ 日時場所

11月2日（日）13:00～17:30 ハートピア安八天文台

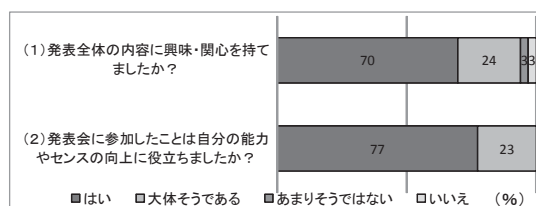
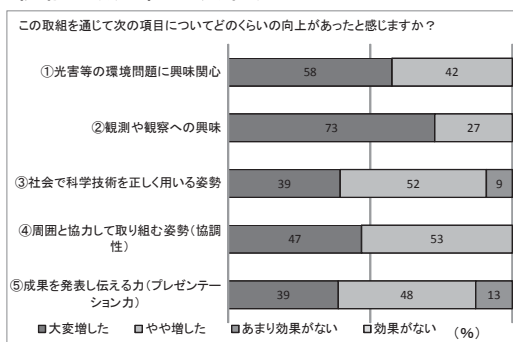
オ 実施内容

小学生から高校生までが口頭発表・ポスター発表をし、各発表ごとに議論を重ねた。また、最後に講師の小野間氏から講評を含む講演をしていた。



ポスターの前で議論

カ 検証（成果と反省）



生徒・児童の感想から

- ・同じテーマを研究している人の発表を見て自分の研究の刺激になった。
- ・ポスター発表の時間が短かった。
- ・小学3年生が三角測量をしていることにビックリしました。今後は楽しみです。

アンケートから光害等に興味関心が強まり、観測・研究への意欲が高まり、発表センスの向上に役立つことが分かる。小学生の発表は、小学生と高校生との双方に良い影響を与えている。また、次年度はポスター発表の時間設定を可能な限り広げたい。